

CT造影剤(注射)の説明及び同意書

〔CT造影剤の使用について〕

- ・造影検査により、診断能力は著しく向上します。
- ・医師が、造影検査をした方が有益と判断しました。
- ・造影剤に対し過敏症の方は、副作用があらわれることがあります。
- ・副作用については、軽度なものから重度のものまで様々です。

〔CT(ヨード)造影剤とは〕

CT検査は、ヨード造影剤を使用する造影検査と造影剤を使用しない単純撮影に分けられます。造影剤はX線で写るため、各種X線検査において血管内に注射する検査薬として多く使用されています。造影剤を使用することで血流の状態を把握したり、画像処理することで血管だけを浮き出したりすることができ、単純撮影より更に詳しく身体の状態を知ることができます。

〔検査の必要性〕

造影剤には副作用の可能性があります。担当医師は病気を診断し治療するうえで、造影剤を使用する検査が非常に有益であると考えます。また、造影剤の副作用発生を減少させるため、異常が生じた場合に迅速に対処できるように検査時に点滴を行います。

〔副作用の種類や発生頻度〕

- ① 急性副作用…造影剤は、他の薬と同様に過敏症により副作用が出現する可能性があります。
 - 《軽症》吐気・嘔吐・じんましん・発疹等 (100~200人に1人)
 - 《重症》血圧低下・息苦しさ・意識消失等 (1万~2万人に1人)
 極めてまれですが、全国的に見れば死亡に至った例もあります。
- ② 遅発性副作用…まれに検査後数時間以降に発疹等の症状が出る場合があります。殆どは軽度なものです。
- ③ 造影剤の漏れ…急速に注入するため、血管外に漏れる場合があります。この場合、注射部位が腫れて痛みを感じる場合がありますので、異常を感じた時は直ちにお知らせください。一般的に数日以内に吸収されますが、まれに手の痺れや皮膚の変色を伴うことがあり、その場合は別途処置が必要になります。
- ④ こうした副作用は、いつ発生するか事前に知ることができません。また、前回検査で異常がなくても今回の検査で副作用が出る場合があります。過去の造影検査で過敏症の症状があった場合は、事前に申し出てください。

〔CT造影剤使用時のご注意〕

- ① **禁忌**…ヨードまたはヨード造影剤に過敏症の既往歴がある。重篤な甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症)
- ② **リスク要因**…喘息・重篤な心・肝障害・腎機能低下・マクログロブリン血症・多発性髄膜種・テタニー・褐色細胞腫 (これらの病気のある方は、症状が悪化する可能性があります)
- ③ **併用注意薬剤**…ピグアナイド系糖尿病薬・β遮断薬・毒性を有する薬剤(抗腫瘍薬・抗菌薬)・IL-2 (インターロイキン-2)

説明担当医師 (医療機関名)

(依頼医師氏名)

令和 年 月 日

同意書

医療法人羊蹄会 小牧ようてい記念病院 院長 殿

私は、造影剤を用いた検査の必要性や副作用の可能性等についての説明を受け十分理解しましたので、今回の検査はその造影剤を使用することに同意します。万一、副作用ある時は必要な処置を受けます。

(自署して下さい)

氏名

代諾者

(続柄)

この用紙はご署名の上、検査当日に必ずご持参ください。(同意書がないと造影検査を受けられません。)